

## Meeting Minutes

会議名	BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第3回	記録	塚原
日時	2020年12月23日(水) 13時～15時	確認・発行者	森谷
場所	Web会議 (ZOOM)	発行日	2020年12月24日

出席者 (順不同・敬称略) ただし、●は出席者、○は欠席者を示す

座長	● 森谷靖彦	● 副座長 村瀬弘幸(情報委員会WG主査)
委員	● 志手一哉(情報委員会委員長)	● 常務理事:前田伸子
	● 沼本要七	● 日本建築士会連合会:横松邦明
	● 加納恒也	● 日本建築士事務所協会連合会:加藤政弘
	● 田中洋介	● 建築設備技術者協会:山下浩一
	● 菊野 格	● 日本ファシリティマネジメント協会:飯島勇、松岡辰郎
	● 須貝成芳	● BIMライブラリ技術研究組合:寺本英治
	● 大越 潤	● 日本不動産鑑定士協会連合会:立石正則
	○ 中島 潤	● 建設物価調査会:足利全教
	● 比嘉俊介	● building SMART Japan:三戸景次
	● 高橋肇宏	● 建築研究所:高橋 暁
	○ 日本建築家協会:筒井信也	● 日本設備設計事務所協会連合会:竹馬章二
	● 日本建築構造技術者協会:馬場勇輝	
オブザーバー	● 日本ファシリティマネジメント協会:猪里孝司	● 建設業振興基金:中緒陽一、帆足弘治
	○ 建築・住宅国際機構:西野 加奈子	● 建設物価調査会:岩井卓矢、丸木健
	● 建築コスト管理研究所:岩松 準	● 日本空調衛生工事業協会:滝澤 宣昭
国土交通省	● 国土交通省 住宅局 建築指導課:田伏翔一	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:小澤 剛
	○ 国土交通住宅局建築指導課:鈴 晃樹	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:若桑節治
		● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:宮内 徹
事務局	● 事務局長 塚原 均	以上36名
配布資料	No.	
	1	(資料1) 委員名簿
	2	(資料2) 第2回BSIJ協議会議事録(案) 2020年2月7日版
	3	(資料3) 部会4の活動について(建築BIM推進会議資料より)
	4	(資料4) 情報委員会活動報告資料(各部会からの報告資料)
	5	(資料5) 分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開について
	6	その他

## 議事次第

NO	ITEM			ACTION / PROGRESS / CONTENTS	配布資料	担当	DUE DATE
	No.	FROM	TO				
1	報告事項						
1		森谷	ALL	委員名簿および前回議事録確認等 委員名簿および前回議事録を確認し、特に意見および修正はなかった。	1 2		
2		森谷	ALL	建築BIM推進会議における部会4の活動について 12月16日に親委員会(建築BIM推進会議)で部会4として今年度中間報告をした内容に沿って説明があり、他部会と連携して国土交通省のまとめたスケジュールに従って進めていることを紹介した。	3		
3		志手	ALL	今年度の情報委員会の活動について 情報委員会 志手委員長から活動報告があり、概算によるコストマネジメントをBIMで展開する上で建設分類体系の中で特にUniclass2015のコード分類を用いるために3つのサブWGで詳細を詰めていることの説明があった。			
4		各部会長	ALL	情報委員会活動報告(各部会からの報告) (1) 分類体系部会 村瀬部会長から資料4に基づいて①Uniclass2015の日本語訳、②コストマネジメントに必要な情報の整理、③概算支援ツールの作成の各進捗状況の説明があった。 (2) 高橋委員からコスト概算支援ツールの目的、仕組み、試作の検討について説明があった。 (3) 菊野委員からUniclass2015を取り扱う英国のNBSとの協議内容について、意見交換しながら日本語訳を作成している現状の説明があった。	4 5		
		村瀬					

## Meeting Minutes

会議名		BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第3回			記録	塚原		
日時		2020年12月23日(水) 13時～15時			確認・発行者	森谷		
場所		Web会議 (ZOOM)			発行日	2020年12月24日		
5		田中	ALL	分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開について 最新のUniclass2015日本語訳が当協会ホームページに公開してパブコメを募集していることについて説明があり、積極的なコメント提出の協力依頼があった。	6			
6		ALL	ALL	その他(質疑応答)  1. building SMART japan三戸委員より、 (1).弊社でUniclassをPJで検討試行したことがあるが、適用が難しいと感じている。Uniclassなど国際仕様に準拠する必然性はありますか。 (2).日本の積算基準などを変更する必要があるのではないか。 (3).ユースケースを提示してほしい(コンクリート、型枠、鉄筋のコード割当でも良いので)との意見があった。 回答:村瀬部会長からグローバルな視点から将来を見据えて今から国際標準に準拠した考え方を取り入れることは大切だと思う、との1に対する回答があった。 菊野委員からUniclassのヒエラルキとしてのアクティビティの考え方が合理的である、との説明があった。また、情報委員会齊藤委員から、Revitのモデルはコンクリートの1つのコードEFやSsなどしか割り当てられないため、型枠や鉄筋は高橋さんが行っている概算プログラムで紐づけ算出できるようになっている。積算基準の変更など貴重なご意見をいただいたので、それを踏まえて今後検討していきたい、との説明があった。  2. 日本不動産鑑定士協会連合会 立石委員より、 現在の不動産では建物に紐づいた土地ということで、空間による合成単価の考え方が実務的であるが、アクティビティの価値としてシステムを意識しながら進めることができるのか、との質疑があった。 村瀬部会長からプロセスの上流川下段階のアクティビティごとに転用して、スペース、建物用途でまとめることができるとの回答があった。				
2	次回の開催予定							
		年度内に成果報告会を開催する予定						